10大消費者トレンド2030

コネクティッドインテリジェントマシン

2020年12月

ericsson.com/consumerlab

10大消費者トレンド2030

消費者が2030年の日常生活でコネクティッドインテリジェントマシンに期待する10の役割

01. ボディボット

力を強化する–消費者の76%は、インテリジェントな姿勢サポートスーツが登場すると予測しています。

02. ガーディアンエンジェル

回答者の4分の3は、プライバシー保護技術で、監視カメラを欺き、電子スヌーピングをブロックできると考えています。

03. コミュニティボット

78%は、電子監視サービスによって地域の連携先に侵入者に関する警告を送ることができると考えています。

04. 持続可能性ボット

気候は今後極端になっていくでしょう-82%は、デバイスがデータを共有し、地域の豪雨や猛暑について警告してくれると信じています。

05. 在宅勤務者

中断されない在宅勤務-79%は、スマートスピーカーがホームオフィススペースの周りにノイズキャンセリングウォールを構築できるようになるだろうと述べています。

06. 説明マシン

10人に8人以上が、投資の処理方法を説明する自動化された財務管理システムを予測しています。

07. コネクティビティの「雑用係」

消費者の83%が、スマートシグナルロケーターが最適な接続スポットに導いてくれるようになると考えています。

08. 悪者ボット

AR／VRユーザーの37%が、窃盗を実行したり、他者を攻撃するよう訓練可能な悪者ボットを望んでいます。

09. メディアクリエーター

マシンがコンテンツをキュレーションします。62%は、ユーザーのゲームプレイ内容に基づいてオリジナルゲームを作成するようになるだろうと考えています。

10. 指図するボット

約10人中7人が、ソーシャルネットワークAIがあなたの性格を理解し、あなたに精神的、肉体的によい影響を与える交友関係を構築してくれるだろうと考えています。

目次

04 方法論
05 コネクティッドインテリジェントマシンの時代にようこそ
06 ボディボット
07 ガーディアンエンジェル
08 コミュニティボット
09 持続可能性ボット
10 在宅勤務者
11 説明マシン
12 コネクティビティの「雑用係」
13 悪者ボット
14 メディアクリエーター
15 指図するボット

方法論

このレポートは、今回で10年目となった、エリクソンが長年続けている消費者トレンド調査プログラムから得られた洞察を示すものです。レポートで言及されている定量的結果は、2020年10月に行われた、バンコク、デリー、ジャカルタ、ヨハネスブルグ、ロンドン、メキシコシティ、モスクワ、ニューヨーク、サンフランシスコ、サンパウロ、上海、シンガポール、ストックホルム、シドニー、東京の住民のオンライン調査に基づいています。

回答者は、現在AR、VR、バーチャルアシスタントを日常的に使っているか、これらの技術を将来使う予定の15〜69歳の人々で、各都市から最小で500名が抽出されています（計15,658人に連絡し、うち7,627人が条件を満たしました）。

これらの人々は、調査対象の大都市圏に住んでいる2億6,100万人のうち5,000万人の市民を統計的に代表しており、これは世界中の消費者のほんの一部にすぎません。しかしエリクソンは、次の10年のテクノロジーを予想するとき、こうしたアーリーアダプターの意見は重要だと考えます。

コンシューマー&インダストリーラボについて

エリクソンのコンシューマー＆インダストリーラボは、イノベーションと持続可能なビジネス開発のために最先端の研究と知見を提供します。消費者、産業、持続可能な社会の未来を探るため、科学的手法を駆使して、市場と消費者のトレンドに関する独自の知見を提供します。

エリクソンの知見は、著名な業界団体や世界有数の大学との協力を含め、世界的な消費者および産業調査プログラムから得られたものです。エリクソンの研究プログラムは、40数か国における毎年10,000人を超える人々への聞き取り調査を含みますが、これは統計上11億人分の意見に相当します。

すべてのレポートは以下でご覧いただけます。
www.ericsson.com/consumerlab

コネクティッドインテリジェントマシンの時代にようこそ

2030年までに、日常生活のどのような役割を機械に期待できるのでしょう?

朝目覚めると、あなたの毎日が爽快に変化していたらどうでしょう。そして、その期待感の一部があなたの家にあるデバイスが生み出すものだったらどう思いますか。これらのデバイスは、あなたのルーティーンを標準化してあなたの好みを代わり映えのしないつまらないものにしてしまうのではなく、その選択肢に知性や創造性をも追加してくれます。

昨晩あなたはあまりよく眠れなかったので、スッキリ目覚められるよう、今日のシャワーの温度は少し低めに設定されています。コーヒーも濃い目です。さらに驚くことに、よく眠れるよう体調を整えるため、クロワッサンが全粒粉パンに置き換えられました。

仕事のある一日は、自動化された業務アシスタントから業務概要の説明を受けることから始まります。その間、あなたが先週経験した身体の痛みが再発しないようオフィスの椅子の位置が調整されます。仕事が終わると、あなたが探していたソファにぴったりだと、あなたと相手の知的エージェント同士が判断したソファを販売する、それまで知らなかった少し離れた近隣住人宅を通り掛かります。あなたはマシンが交渉した価格でそのソファを購入しました。帰宅すると、自動化された財務アドバイザーが休暇の計画をサポートし、予算内に収めながらもあなたの家族に最適なプランの予約を提案してくれます。夜が深まると、あなたは、自身の政治的見解の再考をそっと促す、インテリジェントにキュレーションされたテレビ番組を見ながらゆったりした時間を過ごします。多様な視点から物事を考えることは楽しいものです。

将来のあなたの一日はこんな感じになるのでしょうか。エリクソンリサーチでは、AIとセルラー通信技術の進歩により、コネクティッドインテリジェントマシン同士が未来のネットワーク全体で安全に通信できるようになると考えています。その過程で、インテリジェントマシンにより、世の中がこれまで以上にあなたの暗黙のニーズに対応してくれるようになるのではないかと思います。

機械が知的になりつつあるとは言っても、それは必ずしも、腕や脚を持ち、親しみを込めた笑顔を見せてくれる人間のような外見になるということではありません。単に人間よりも非常に迅速かつ論理的に物事を遂行する顔のないシリコンの抽象的な作品となるだけかもしれません。

いずれにせよ、それらは根拠もなくただあなたの気まぐれに従うだけの、無分別な自動化された機械や召使いではない可能性があります。

この調査では、14の異なるカテゴリーで、人間中心のものからより合理的観点のものまでを含んだ八つのコネクティッドインテリジェントマシンのコンセプトとして、計112のコンセプトアイデアを回答者に提示しました。

この調査結果は、回答者が今後10年間でコネクティッドインテリジェントマシンが消費者の日常生活の中で果たすであろうと考える様々な役割の要約です。あなたも同じ考えでしょうか。コネクティッドインテリジェントにはどのような未来が待っていると思いますか?

ボディボット

コネクティッドマシンは、消費者を肉体的、そして精神的に強化することが期待されています。

「外骨格」という言葉は非常にハイテクに聞こえるかもしれませんが、実はあなたが想像できる最も古いものの一つです。生物は、先カンブリア紀にまで遡る古代から自身の体を支え、保護するために外骨格を使用してきました。そして人間は体の動きをサポートするために19世紀後半からそれらを使用しています。しかし、外骨格が日常生活の一部になるのは、低コストのAIチップや新しい軽量のバッテリー技術、低遅延5Gネットワークが登場した今でこそ可能なことかもしれません。

10人中6人が、2030年までに自宅の修理を補助したり、どんな物でも運べる力を提供する外骨格スーツ（パワードスーツ）が利用可能になると考えていますが、世界の都市圏に住むアーリーアダプターは、これとは異なる別の利点がより重要になるだろうと予測しています。76%もの回答者が、日々の活動を行う際に正しい姿勢を維持するのを助けるインテリジェントな姿勢サポートスーツが登場するだろうと述べています。さらに、うち半数の人が、自分自身でもそのようなスーツを使いたいと考えています。

肉体的な力よりもウェルネスを重視するこの現代的な考え方はまた、71%の回答者が、パーソナライズされた料理のレシピを調理器具に送信してくれる、軽量かつ折りたたみ可能なエクササイズマシンが将来的に実現すると考えていることにも反映されています。

興味深いことに、現代の都会人は、力とは、主に自分の周りの技術を制御する能力であると考えているようです。したがって、回答者の71%は、2030年までに、話す内容をすべてをコードに変換し、あらゆるデバイスを人間がプログラミングできるようにするAIアシスタントが登場だろうと予測しています。あなたの思考によって究極の身体強化が実現できるかもしれません。

ボディボットを使用したい人のうち10人に4人が、第三者とデータを共有しないデバイスを持つことが高いステータスを示すと考えています。これに対し、ボディボットが2030年までに実現されないだろうと考える人のうち、第三者とデータを共有しないデバイスを持つことが高いステータスを示すと考える人は17%にとどまりました。

53分
高

84 bpm

300kcal

力を強化する

ガーディアンエンジェル

近い将来、保護技術の利用の急増が予想されます。

人生にこれから多くの予期せぬ危険が待ち受けていると考えた時、多くの人が自身を守るための技術を使用することを考えるでしょう。実際、回答者の30%は、私たちが提示した八つのガーディアンエンジェル（保護技術）の概念がすべて2030年までに実現するだろうと信じています。

具体的には、75%もの回答者が、2030年までに、盗まれたり貸したまま返却されていない物を見つけられるネットワーク化されたアイテムトラッカーが利用可能になるだろうと述べています。また、こういったタイプの接続されたインテリジェントな保護技術は、ほとんどの人が自分自身で使用したいと考えている技術でもあります。あなたの持ち物すべてに「私の携帯電話を探す」のような機能が備わっていると考えると、それがどのような未来になるかを想像しやすいでしょう。

しかし、データは私たちにとっても重要であり、その重要性は確実に今後10年で増大するでしょう。回答者の4分の3は、デジタルフットプリントを減らし、監視カメラを欺き、電子スヌーピングをブロックするように個人デバイスを調整するプライバシー保護技術が10年後には実現するだろうと考えています。同時に、人が物を追跡できるように、物が人を追跡することも可能です。そのため、回答者の70%が、接続を利用して人を追跡し、あらゆるものから人を守ってくれるデバイスが登場するだろうと予測しているのも納得できます。

しかし、もしあなたが警戒されている側である場合はどうでしょう。回答者の3分の1が、何らかの悪事を働いている疑いのある家族や近隣住民や他の人々を監視するためのオンライン監視データを収集する人工私立探偵を利用したいと考えています。興味深いことに、約3分の1の人が、そのような保護技術が自身にも悪影響を及ぼす可能性があると述べています。その観点から見ると、ネットワーク化されたアイテムトラッカーはより信頼性が高いようで、回答者の53%が自分自身でも使用したいと考えており、悪影響を及ぼす可能性があると考えている人は17%にとどまりました。

しかし、他のすべての保護技術ボットにおいて、より多くの負の副作用が示されました。例えば、回答者の約4分の1は、他人のナノボットとデータを交換することで癌やウイルスと戦うために血流中に置かれるナノボットは自身に悪影響を及ぼすかもしれないと考えています。その反面、ほぼ半数がそういった技術を使用したいと考えていました。

興味深いことに、これらの保護技術の利用を望む人のうち3分の2もの人がそのような技術が自身に悪影響を及ぼすかもしれないと考えていました。

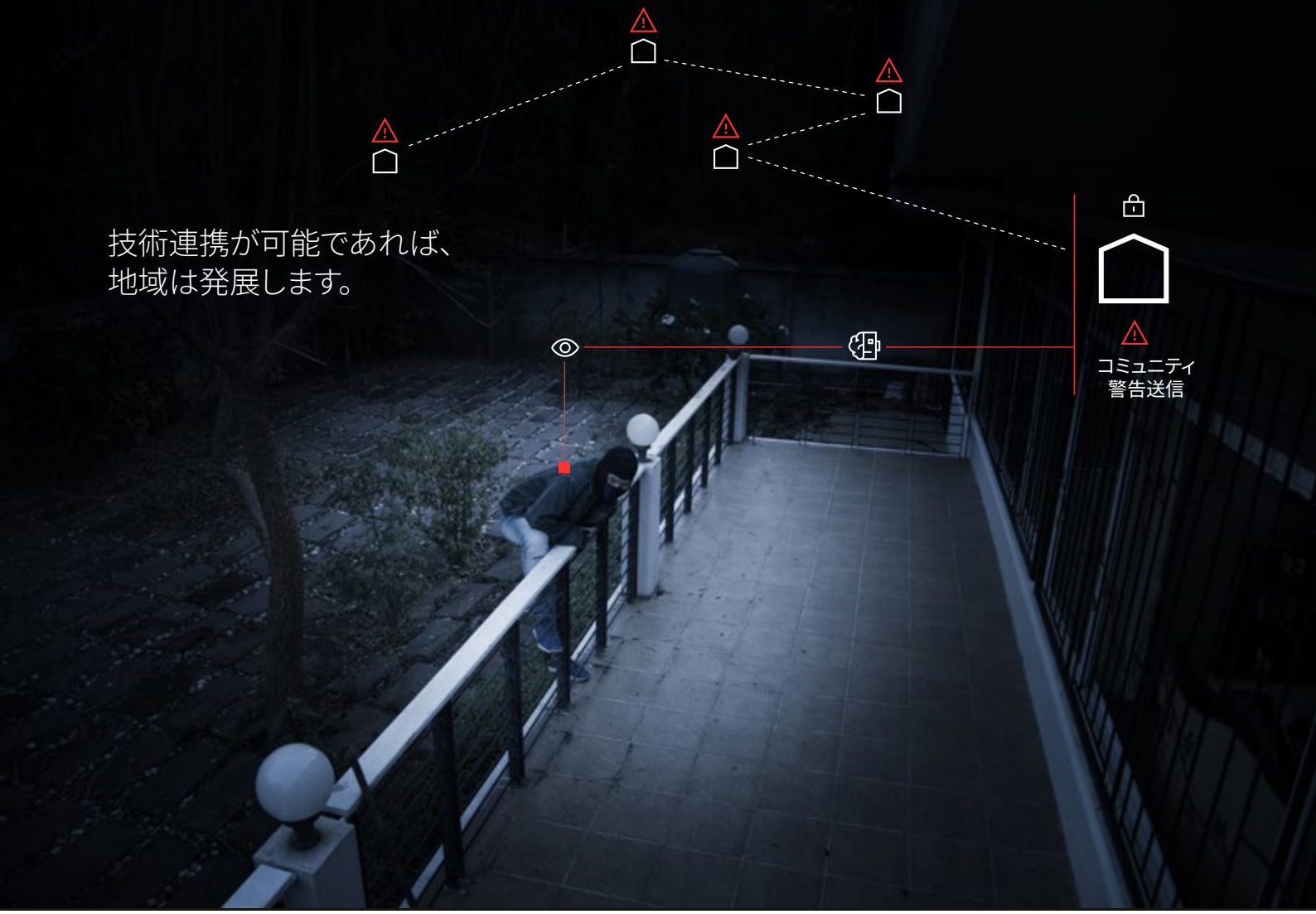
75%

回答者の4分の3は、プライバシー保護技術が、デジタルフットプリントを減らし、監視カメラを欺き、電子スヌーピングをブロックするように個人デバイスを調整することになるだろうと考えています。

あなたを監視する

コミュニティボット

技術連携が可能であれば、
地域は発展します。



地域で連携する

欺けないなら、連携しましょう。そしてもし、保護技術があなた自身に対して使用される可能性があるなら、あなたの周りにいる他人と手を組むことは非常に分別のある方法かもしれません。78%もの人が、2030年までに、自分の家を守るだけではなく、侵入者がいる場合に近隣の他の監視システムにも警告を送ることができる電子監視サービスが登場するだろうと考えるのはそのためかもしれません。

しかし、都市化が続く中、世界の主要都市は他にも多くの課題を抱えており、多くの地域が良い環境を維持するのに苦労しています。コネクティッドマシンが共同で近隣を守ることができれば、より多くの利点が生まれる可能性があります。回答者の74%が、2030年までに、自律的に共同で地域の共用エリアをメンテナンスしてくれる芝刈り機などのガーデニングデバイスが登場するだろうと考えています。

ソーシャルネットワーク上で友人になるといった抽象的な方法だけでなく、物理的に自身が住む地域で協力し合うために技術が使用される未来を想像してみてください。コミュニティを真に活気づけるには、自動化されたサービスだけでなく、人間同士のインタラクションが必要です。しかし、こういったシナリオにおいてマシンが活躍する余地は、まだ十分にあります。一例として、AIで計算した価値に基づいてコミュニティメンバーが物々交換できるシステムがあげられます。約10人に7人が、最先端の技術を使って持続可能なライフスタイルを実現し、コミュニティの団結力を高めることが10年後には現実になると考えています。

しかし、このようなシステムが機能するためには、実際の物々交換プロセスにおいて、システムのユーザーは、自身がボットとして表現されることを許可する必要があります。偶然にも、接続されたコミュニティボットを使用したいと考える人の43%は、より一般的なレベルで、自分の代理となって行動できるデバイスに自分のアイデンティティを委ねてもいいという考えを既に持っています。これには、家賃の交渉やクレジットカードの使用、または代理投票なども含まれる可能性があります。しかしおそらく一番決定的なコミュニティボットは、AIと統合された住民自身でしょう。現在、日常的にAR/VRを使用するユーザーであるという意味で既に仮想世界に住んでいる人の約3分の1は、自身の心と意識をアップロードし、自分自身がAIになることが想像できると述べています。これに対し、AR／VRを使用しておらず今後も使用する予定もない人では、同様の回答をした人は10人に1人にとどまりました。

78%

消費者の約10人に8人が、侵入者がいる場合に自身の家を守り、コミュニティの他の監視システムにも警告を送ることができる電子監視サービスを予測しています。

持続可能性ボット

気候危機が日常生活を脅かしている今、技術は新しい役割を果たす必要があります。

気候危機と、それが将来の世代に何を意味するかを考えるとき、行動を起こすことが非常に困難に思えて意気消沈しがちです。しかし、依然として化石燃料に依存しているこの社会において重要なことの一つは、エネルギー使用量を制限する方法を見つけることです。84%もの人が、2030年までに、スマートフォン、ウェアラブル、家庭用デバイスが、他のすべてのデバイスと電力を共有しオフピーク時にのみ充電することで電力を節約できると予想しています。

別の方法として、持続的に家庭で発電することが考えられます。これは確かに実行可能な選択肢かもしれません。実際、83%の人が、太陽、動力、雨、廃棄物などの複数の供給源からエネルギーを生成する自己充電電池が2030年までに利用可能になると考えています。既に10人に6人が自己充電バッテリーを使用したいと述べていることからも、自立持続可能なエネルギー源に対する需要は高まることが予想されます。全体として、省エネルギー化への関心は高く、半数以上の人が他のデバイスとエネルギーを共有するデバイスを使用したいと考えています。

しかし、気候危機がエネルギー消費の問題よりはるかに幅広い問題であることは明らかです。例えば、多くの人にとって、日常生活の中で極端な天候に対応していくことも重要な課題です。82%の人が、スマートフォンやウェアラブルは、今後10年のうちに、全員の個人デバイスとデータを共有することで、地域の豪雨や猛暑に対する警告を発することができるようになるだろうと考えています。

最後に、水の確保に対する懸念も既に高まってきています。半数の人が、2030年までには、他の浄化器とデータを共有することで、新しい汚染物質に対応し、新しい浄化スキームを継続的に学習する浄水装置を使用したいと述べています。

82%

消費者の82%が、スマートフォンやウェアラブルは、全員の個人デバイスとデータを共有することで、地域の豪雨や猛暑に対する警告を発することができるようになるだろうと考えています。

50%

消費者の半数が、新しい汚染物質に対応し、新しい浄化スキームを継続的に学習する浄水装置を望んでいます。

嵐を切り抜ける

在宅勤務者

在宅勤務では柔軟な技術への需要が増します。

コロナウィルスによるパンデミック下で、在宅勤務は世界中の主要都市の多くの人々にとって新しい日常となりました。強制的に孤立させられていると感じる人もいるかもしれませんが、一方で、長い通勤時間から解放されて生み出された時間はまさに恩恵であると考える人もいます。しかし、すべての回答者が潜在的に同意するだろうと思われることは、ホームオフィスが、これまでは考えていなかった新たな課題を提起しているということです。

その課題の一つはコストです。84%の人が、2030年までに、コーヒーや料理などの関連電力使用量を含めた、在宅勤務で使用した電力を計算するスマート電気メーターが登場すると予測しています。

もう一つの課題は、信頼できる方法で作業時間を集計することです。このため、10人に8人が、すべてのデバイスに接続し、自動的に在宅勤務時間を報告するタイムトラッカーが実現されるだろうと考えています。しかし、もっと頭の痛い課題は、スペースが非常に高価な密集した都市部において、より恒久的な形で在宅勤務をする場所を見つけることかもしれません。その結果、家族間でお互いの作業を妨害しないよう、異なる活動モードの切り替え機能を重視したホームテクノロジーの必要性が一層高まっています。一例として、通話に集中できるようにホームオフィススペースの周りにノイズキャンセリングウォールを構築するスマートスピーカーがあげられるでしょう。79%もの人が10年後にはこれが利用可能になると考えており、このような高度に適応性の高い製品の強い将来性が示されています。

現在のオフィススタッフの大きな割合を占めるホワイトカラー労働者は、将来的に自身がコネクティッドインテリジェントホームオフィス機器を使用するだろうと最も強く考えています。前述したスマートスピーカーと電気メーターは、それぞれホワイトカラー労働者の54%が使用すると予想していますが、それ以外に、ホワイトカラー労働者はとりわけスマートワークライフバランスプランナーの利用に興味を示しています。実際、約半数の人が、イライラや妨害を最小限に抑えるために、家族全員のホームアクティビティのプランニングができるのであればそのようなプランナーを使用したいと考えています。同時に、ホワイトカラー労働者は、他の労働者よりもホームオフィスボットにより多くの問題を感じていることも指摘しておく必要があるでしょう。例えば、ホワイトカラー労働者の4分の3が、勤務時間中に仕事に関係のない活動を行った場合に雇用主に警告するワークトラッカーが将来的に使用されるだろうと考えています。しかし、彼らの3分の1以上がこれが自身に悪影響を及ぼすだろうと述べています。同様に、自動勤務時間トラッカーが今後10年以内に使用されると考えている人の4分の1が、それが自身に悪影響を及ぼすとだろうと述べています。

全体として、10人中9人の労働者が何らかのコネクティッドインテリジェントホームオフィスボットを使用したいと考えています。同時に、約10人に6人が、そのような技術が自身に悪影響を及ぼす可能性があると考えています。在宅勤務は、仕事に関連する問題を解消してくれるわけではありません。単に新たなスタイルが加わるだけなのです。

中断されない在宅勤務

説明マシン

消費者に限って言えば、AIはAlien（異質な）Intelligenceかも知れません。これは変えていく必要があります。

説明できるマシン

多くの人にとって、機械がどのように判断しているか理解することはほぼ不可能です。したがって、技術が自分自身を説明するようになることへの需要が生まれます。最初に思い浮かぶ技術は、もちろんスマートフォンです。86%の人が、2030年までに、スマートフォンのアプリが、収集したデータとその使用方法を説明するようになると予想しています。しかし、それは現実的なことでしょうか。これらのアプリがあなたの個人データをどのように使用しているかを詳しく知れば、あなたはそのアプリの使用を制限したくなり、結果的にアプリ製作者の収入源を減らすことになるでしょう。

しかし、バーチャルアシスタントを日常的に使用しているという意味において既にスマートフォンとの会話を始めている人の46%は、2030年までに、AIデバイスが何をしているかを説明することが法律で義務付けられるだろうと述べています。彼らが、現在バーチャルアシスタントを使用しておらず今後使用する予定もない人（このうちそういった法律が制定される可能性があると考えている人は32%のみ）よりも技術に精通していることを考えると、実際、これはあり得ることかもしれません。

また、財務状況も、多くの人が把握するのに苦労する分野としてよく挙げられます。10人中8人以上が、自分の投資した資金がどのように取り扱われているかを説明する自動化された財務管理システムが登場するだろうと予想しているのも意外なことではありません。

しかし、説明できるボットが克服すべき新しい分野も生まれています。想像してください。あなたは観光旅行に来ていて、ガイドが、今通り過ぎた公共建築物が立てられた時期や、隣接する教会の尖塔の高さを説明しています。すると、なぜかそのガイドは、あなたの目の前に自転車に乗った人がいて、また、道を渡ろうとしている児童が9歳から11歳くらいに見えるので、交通状況を確認せずに突然飛び出すかもしれないと説明し始めました。そして最後にガイドは、この時間帯はラッシュアワーで、街の混雑したエリアに入ったため、ここからはご自分で運転してくださいと言うのです。ここまで来てあなたは、このガイドがあなたに話しかけている車そのものであることに気づくでしょう。実際78%の人が、2030年までに、自動運転車両は運転の意思決定をユーザーに説明できるくらいの落ち着いた交通量の時のみ運転を行うようになると予想しています。

自己説明する電話アプリや財務管理システムや自動車が10年後には登場すると考える人のうち、およそ半数がこれらの技術を自分自身で使用したいと考えていました。しかし、これらの説明ボットはすべて、現在バーチャルアシスタントを使用しておらず今後使用する予定もない人に比べ、バーチャルアシスタントを使用しているユーザーからより高い支持を得ていました。これは技術に対する会話的なアプローチが、情報を把握し続けるための良策である可能性を示しています。

コネクティビティの「雑用係」

消費者は、2030年までに現在のスポット的なコネクティビティは消滅すると予想しています。

常に最高の接続を

昨年は、世界中の消費者にとって、現在の社会インフラとしてコネクティビティがどれほど重要であるかがとりわけ明らかになった年でした。しかしながら、依然として多くの人が課題に直面しており、携帯電話ネットワークのカバレッジも必ずしも完璧とはいえません。しかし消費者は、今後、デバイスがあらゆる信号にインテリジェントに適応し、携帯電話、Wi-Fi、固定接続をシームレスに使用できるようになることを期待しています。実際、40%の人が、質問した八つのコンセプトすべてが2030年までに利用可能になると予測しており、他のどのコネクティッドインテリジェントマシンタイプよりも、コネクティビティに対する期待は高い状態です。

日常的にAR／VRを利用するユーザーからの期待はさらに高く、おそらくAR／VRへの高い性能要件から、彼らの47%が今回質問したすべてのコネクティビティの「雑用係」が10年後には実現するだろうと予想しています。

現在、AR／VRアプリケーションは主に屋内で使用されています。86%もの人が家庭でのコネクティビティが大幅に向上すると予想しており、必要な設定をすることなく、デバイスをファイバー、ケーブル、5G、Wi-Fiに自動的に接続してくれるアクセスポイントも具備されるだろうと考えています。

ホームコネクティビティがシームレスになれば、次は街中が対象となります。2030年までの実現が2番目に多く期待されているサービスは、混雑したエリアでも最適なカバレッジを確保できるスポットにあなたを導くスマートシグナルロケーターです。事実、83%の人が2030年までにこのサービスが実現されると予測しています。

しかし、あなたがいる場所に関わらず、インテリジェントマシンはコネクティビティを向上させられるはずです。このため、10人中8人が、同時期に、デバイスのパフォーマンスをインテリジェントに向上させるネットワークベースのデバイスアクセラレータが登場すると考えています。

2019年のトレンドレポート「The Internet of Senses」で述べたように、AR／VRは2030年までに大きく進化し、触覚、嗅覚、さらには味覚までも表現できるようになる可能性があります。そのためには、ユーザーが非同期的な触覚体験や悪心を引き起こすネットワーク遅延に悩まされないよう、コネクティビティが一層インテリジェントになる必要があります。日常的にAR／VRを利用するユーザーは、95%が自分自身も接続ボットを使用したいと述べていることからも、このような問題に一層敏感なのかもしれません。しかし、10人中6人が、コネクティビティの「雑用係」が自身に悪影響を及ぼす可能性があると考えていることも注目すべきでしょう。一方で、AR／VRを使用しておらず今後使用する予定もない人ではこの数字は37%にとどまっています。これは、コネクティビティ強化の正確な方法と、個人データの取り扱い方法などが、依然として最重要課題であることを示しています。

悪者ボット

不愉快な技術の使い方を、チャンスと考える人もいます。

「甲の薬は乙の毒」という16世紀の古いことわざがあります。これはこれまで同様、デジタルの世界でもまた真実なのです。他人の幸せを望まない人は、デジタル技術を使用して人に様々な脅威を与えます。言い換えると、デジタル製品は、潜在的に、または明確な目的を持って、害を及ぼす可能性とともに提供されるのです。ここではそれを悪者ボットと呼びますが、93%の人が、2030年までに少なくとも一種類はこのようなものが登場するだろうと予想しています。

このために警戒が必要となるかもしれません。結論から言うと、日常的にAR／VRを利用するユーザーは、おそらくデジタル領域間をローミングすることにすでに快適さを見出しているため、これをチャンスと考えている可能性があります。このグループの3分の2もの人が、自身の目的を果たすために悪者ボットを使用したいと考えています。一方、AR／VRを使用しておらず今後使用する予定もない人の場合は4分の1でした。

実際、最も求められている悪者ボットは、その所有者によって路上で強盗をしたり人を襲ったりするよう訓練されたロボットであり、現在AR／VRを利用しているユーザーの37%が将来使用したいと考えています。さらに、彼らのほぼ4分の1が、クレジットカードやスマートカードを乗っ取り、車の電子ロックをこじ開け、自動販売機を空にし、スマートフォンのハッキングを行うためにAIデバイスを使いたいと考えています。そして、ゾッとすることに、同じくらいの数の人が、逮捕された時にその所有者とやりとりできるよう軍事グレードの暗号化を用いた、ドラッグや盗品の販売ボットを使用するだろうと考えています。技術は中立であるという人もいるかもしれませんが、いずれにしても、人はそうではないようです。

回答者の77%によると、2030年に存在する可能性が一番高いと考える悪者ボットのコンセプトは、ユーザーに知られることなく侵入してログイン情報をすべて乗っ取るために、ユーザーのデバイスの挙動を学習するハッキングボットのネットワークです。

さらに、4分の3の人が、ユーザーのオンライン行動、ビデオ、写真の分析を利用してパーソナライズされた攻撃で詐欺を働くネットワーク化されたフィッシングボットも出現するだろうと予測しています。

これらの予測に基づくと、AIのための標準化された倫理フレームワークの必要性はこれまで以上に急務であると思われます。

77%

消費者の10人に7人以上が、ユーザーに知られることなくデバイスの挙動を学習して乗っ取るハッキングボットネットワークが出現すると予測しています。

連携できないなら欺こう

メディアクリエーター

消費者は、マスメディアが2030年までに一層自動化の影響を受けるだろうと予測しています。

今日、自動化されたボットは既に他言語間でウェブサイトを動的に翻訳したり、ニュース記事を収集、編集したりしています。しかし、2030年までの間に、一層デジタル化が進むマスメディアは引き続き主に人間の手によって作られ続けるのでしょうか。それともコネクティッドインテリジェントマシンがより大きな役割を果たすようになるのでしょうか。

世界の主要都市における消費者技術のアーリーアダプターを対象とした私たちの分析によると、実際に人間と機械の間にメディア制作競争が起こっていることを示しています。しかし勝者を決めるのは時期尚早です。私たちが質問した八つのメディア制作コンセプトの半分以上において、5人に1人がAIよりも人間を好んでいますが、人間よりもAIを好む人の割合も5人に1人でした。

音楽においては、私たち人間が依然として好まれており、65%の人が、ポピュラー音楽の作者およびパフォーマーとして人間を好んでいます。興味深いことに、特筆すべきはAR／VRユーザーで、彼らのうちAIを好む人の割合は47%にも上っています。これはおそらく昨今のVRのリズムゲームの人気の影響によるものでしょう。しかし、メディア制作は音楽以外の分野でも依然、人間の創造性の領域であり、60%が人間の映画プロデューサーを好んでいます。

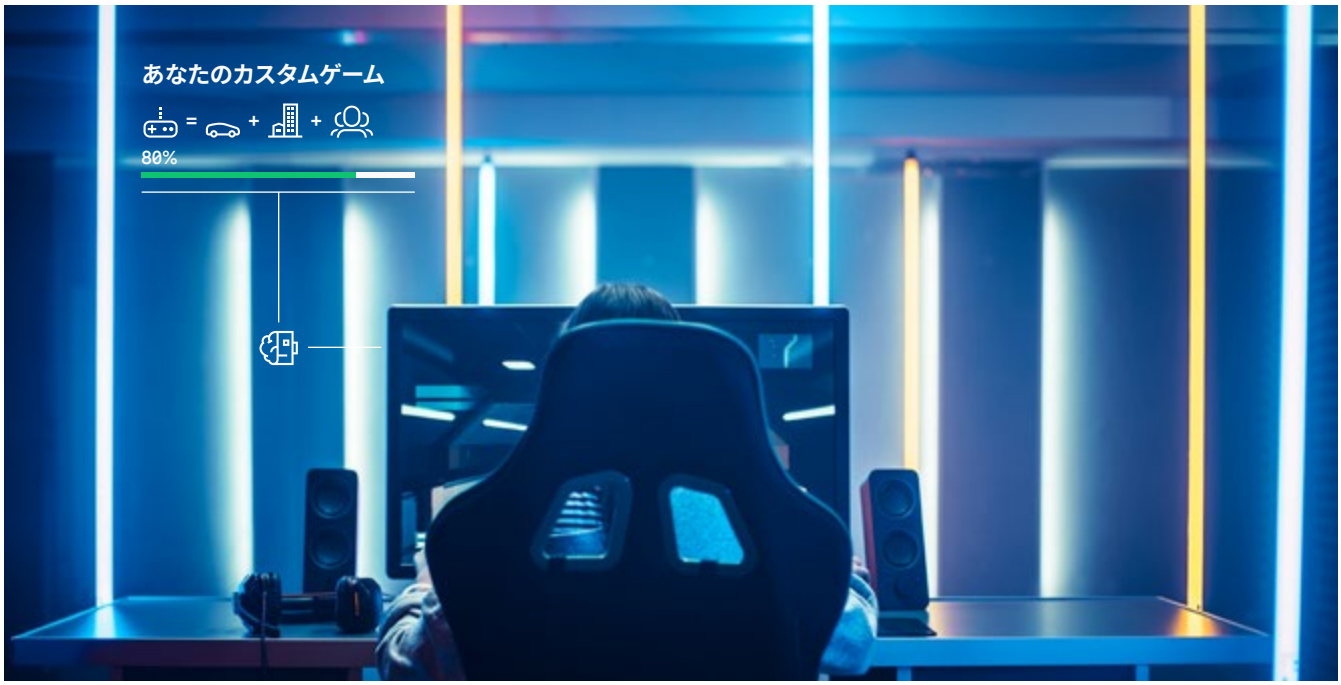
対照的に、62%の人はゲーム機自体がこれまでのゲーム挙動に基づいてオリジナルゲームを作成してくれることを期待しています。さらに、57%は、人間の営業担当者に問い合わせる代わりに、直接広告にアドバイスを求められるようになるとよいと考えています。例えば、ジム入会の広告が、トレーニングシューズやワークアウト用のウェアに関するアドバイスを行うことが考えられます。

しかし、特にキュレーションに関してメディアがますます自動化されるという考えは広がっています。4分の3が前述のアドバイスを提供する広告が2030年までに実現すると考えているだけでなく、同じくらいの数の人が同時期までに、音楽、映画、書籍、ゲーム、ニュースに関する完全にパーソナル化したメディア体験をキュレーションするメディアブローカーが出現するだろうと予想しています。

また、これは2030年までに存在する可能性が最も低いコンセプトと予想されてはいるものの、10人に6人が、ヒットチャートで人間を上回る人工ミュージシャンが登場するだろうと予想しています。

62%

消費者10人中6人が、ユーザーのこれまでのゲーム挙動に基づいてオリジナルゲームを作成してくれるゲーム機を望んでいます。



あなたのコンテンツをキュレーションする

指図するボット

機械が日常生活で私たちにアドバイスを与えるのが一層上手になってきました。一少し上達しすぎかも？

私たちの電子デバイスは私たちに関するより多くのデータを収集するようになりました。そして時の経過とともに、電子デバイスは私たちの挙動について私たち自身よりも深く知るようになります。人間は忘れっぽい生き物ですが、コネクティッドインテリジェントマシンはほぼ無限のメモリを持ち合わせています。その結果、多くの人にとって、自分でアクションの選択肢を考えるよりもデバイスのアドバイスをそのまま聞き入れた方が役立つというレベルにまで、自動化された技術からのアドバイスの質が高まるでしょう。

機械から与えられるアドバイスの多くは特に議論の対象にはならないでしょう。例えば、76%の人が、家族間で共有している電子デバイスや個人の電子デバイスを家庭で最適に利用できるようガイドするAIホームマネジャーが2030年までに使用できるようになると考えています。これによって、寝過ごしたり、いつもより長めにシャワーを浴びたりした朝には、コーヒーマシンが事前設定された時間より遅めにコーヒーを淹れてくれるようになるかもしれません。

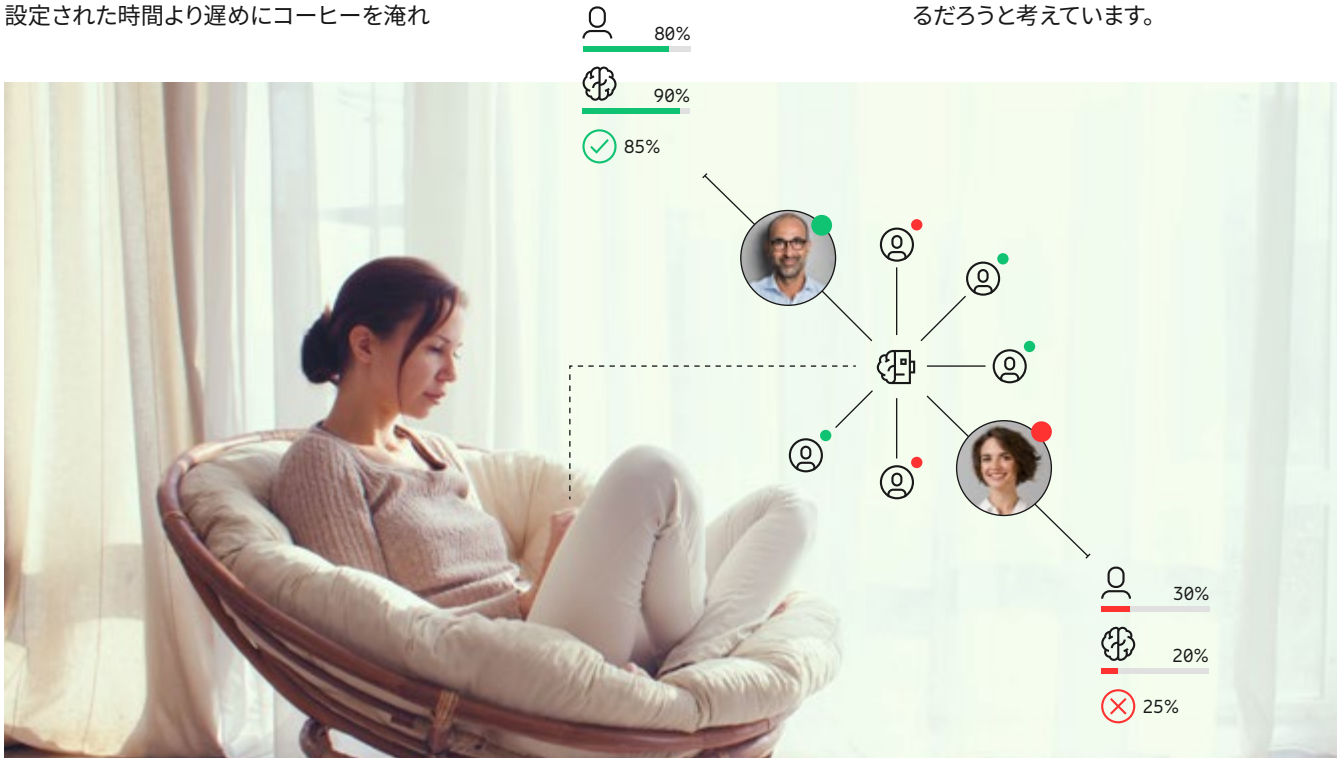
しかし、アドバイスによっては、あなたのコネクティッドインテリジェントデバイスがあなたに偉そうに指図をしているように感じ、非常に煩わしく感じることもあるかもしれません。74%もの人が、外出時のアルコール摂取量を記録し、飲み過ぎた時はお金や車のキーをブロックするウェアラブルが登場すると予測しています。

これは職場にも当てはまるかもしれません。職場にAIアドバイザーを設置したいと述べた人の割合は27%で、設置したくないと述べた人の26%をわずかに上回っているにすぎません。興味深いことに、ホワイトカラー労働者は他のグループよりも意欲的で、31%がこの考えに同意しています。対照的に、この考えに同意する学生はわずか21%で、若い世代は現役労働者よりもインテリジェントな技術にあまり魅力を感じていない可能性があることを示しています。

このような技術に関する意見の相違は、今後さらに分極化する可能性があります。現在AIアドバイザーを職場に設置することを希望する人のうち71%は2030年には意欲がさらに高まると考えています。一方、現在職場へのAIアドバイザー設置を希望していない人のうち61%は、2030年までにその意欲はさらに低下すると考えています。

このような課題を考えると、10年後にはあらゆる場所にAIが設置されていて、人間はますます重要な仕事をしなくなるだろうと考える人が10人に3人であることにも納得がいくでしょう。おそらく、その時までに、同じくらいの数の人が、自身のパーソナルAIアシスタントをオフにすることが、若者が親の言うことを聞かなくなることで自立心を見せるのと同じ意味を持つと考えるようになるかもしれません。

しかし、同時にポジティブな兆候も見られます。例えば、10人に7人は、2030年までにソーシャルネットワークAIがあなたの性格を理解し、あなたにとって精神的、肉体的によい影響を与える交友関係を築いてくれるだろうと考えています。



あなたのために決定を下す

エリクソンは、コネクティビティから最大限の価値を創造する通信サービスプロバイダーをお手伝いします。ネットワーク、デジタルサービス、マネージドサービス、新しいビジネスにわたるポートフォリオを持ち、お客様のデジタル化、効率向上、新たな収益源の発掘をお手伝いします。エリクソンのイノベーションへの投資は、電話とモバイルブロードバンドのメリットを世界中の何十億もの人々にもたらしてきました。エリクソンは、ストックホルムとニューヨークのナスダックに上場しています。

www.ericsson.com

Ericsson
SE-164 80 Stockholm, Sweden
Telephone +46 10 719 0000
www.ericsson.com

本文書の内容は、調査方法や設計、製造の継続的な進歩により、予告なく変更されることがあります。エリクソンは、本文書の使用に起因するいかなる過失や損害についても何ら責任を負うものではありません。

GFTL-20:001553 Uen
© Ericsson 2020